

卒業シーズンが近づいてまいりました。
いつもとは違う1年ではありましたが、
例年のように気持ちよく学生たちを送り出したいものです。

<速報!>

◆ 第33回日本語弁論大会 2月8日にオンライン開催

全国から11名がエントリーした第33回大会。
2月8日に文化学園での開催を目指して準備してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、東京の事務局をホストにオンラインでの開催となりました。オンライン開催は初の試みでしたが、出場校の皆様の協力のおかげで新しい可能性を広げて終えることができました。



今回も多くの団体、企業にご協力いただきました。お礼申し上げます。

ご後援 文部科学省、日本私立大学協会、全国専修学校各種学校総連合会、
(公社)日本語教育学会、(一財)日本語教育振興協会

ご協賛 (株)東京教育公論、(株)凡人社、(株)ライセンスアカデミー

◆ LAMICHHANE SACHIN さん (横浜デザイン学院) が



LAMICHHANE SACHIN さん

最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞

横浜デザイン学院のラミチヤネ サチンさん(ネパール)が最優秀賞に輝きました。日本語のサポートが必要な外国人児童をテーマに語り、聞き手の心をつかみました。昨年創設された文部科学大臣賞も贈られ、画面に映る表情から受賞の喜びが全国に伝えられました。

「日本で自分らしく生きる」(要旨)

現在、横浜市では多くの外国人が暮らしており、日本語のサポートが必要な児童生徒が約 2,705 人もいます。私は実際に中学校に行き、ネパールから来たばかりという生徒を紹介してもらいサポートを始めました。

私が今日、みなさんに伝えたいことは、みなさんの学んだ日本語を自分のためだけではなく、困っている児童のために使ってみませんかということです。

私たちは同国の先輩として、日本でどうやって生きていくかアドバイスができます。私は彼に、日本人になれ、日本の文化に従えではなく、自分のアイデンティティに誇りをもってネパール人として活躍してほしいです。そういった人材がこれから日本を、ネパールを、世界を豊かにするのだと思います。そのためにこの活動をもっと多くの留学生に知ってもらいたいです。彼らが「日本で自分らしく生きる」ために。

◆ 外務大臣賞は LAMA ASMITA さん (新宿日本語学校) に

「国際的な問題解決への提案や国際交流の発展などをテーマとしたスピーチでもっとも優秀なもの」に贈られる外務大臣賞。2 代目の受賞者は、新宿日本語学校の ラマアスマミタ LAMA ASMITA さん (ネパール) でした。身振り手振りを交えながら、熱い思いを語り、優秀賞とのダブル受賞となりました。

「絶望の中の希望」(要旨)

私が育ったネパールの村は森に囲まれた自然豊かな美しい所です。しかし、多くの少女たちは学校に通うこともできず、幼い頃に結婚させられ、子供を産むための道具として扱われています。



LAMA ASMITA さん

私は、両親の離婚をきっかけに、幼い兄弟と共に祖父母と暮らしました。畑仕事や牛の世話をしながら、必死に学校に通いました。村にいる学校へ行けない子供達のために学校を作りたいという夢があったからです。

しかし、5 年生の時、学校をやめて仕事するように言われました。勉強をやめることは夢をあきらめること。私は、絶望の中で希望をも失いかけていました。

そんなある日、貧困家庭を支援する「RHEST」という NGO に出会い、私に高等学校を卒業するまでの奨学金を約束してくれました。絶望の中で出会った一筋の希望の光でした。

今、私は朝日新聞奨学生として、日本で働きながら、勉強しています。将来、貧しい子どもたちを支援する NGO を作りたいと思っています。

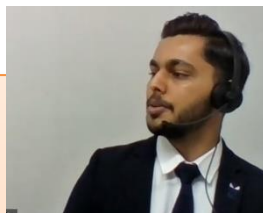
私の大きな夢、それは、絶望のなかの希望を、私のような子どもたちにひきつぐことです。

今回の入賞者の皆さんを紹介します。

最優秀賞・文部科学大臣賞

「日本で自分らしく生きる」

ラ ミ チ ャ ネ サ チ ン
LAMICHHANE SACHIN (ネパール) 横浜デザイン学院



優秀賞・外務大臣賞

「絶望の中の希望」

ラ マ ア ス ミ タ
LAMA ASUMITA (ネパール) 新宿日本語学校



優秀賞

「私」

コウ ス キ
黄 思綺 (中国) ECC 国際外語専門学校



審査員特別賞

「800 円」

ジョン ソンヨン
鄭 羨燕 (韓国) 専門学校アジア・アフリカ語学院



第 33 回大会は、発表者が例年より少ない 11 名でしたが、本当にレベルが高くどのスピーチにもなるほどと頷かされされました。以下、発表者のみなさんです。

「思いやりの『かたち』」

ドルジパーラム エルデネスバト
DORJPARLAM ERDENESUVD (モンゴル)

外語ビジネス専門学校



「かごの中の鳥は幸せ？」

チン シュンキ
陳 俊熙 (香港)

大阪 YMCA 国際専門学校



「幸せの秘訣」

ファン ウエイ
黄 薇 (中国) 麻生外語観光&製菓専門学校



「時間を楽しんでみませんか!？」

ビシュット ラ チ ナ
BISHT RACHNA (インド) 福岡外語専門学校



「人生の成長指南役」

パク ソンヒョン
朴 星炫 (韓国) エール学園



「大丈夫」

バヤル フー ジャブ フラン
BAYARKHUU JAVKHLAN (モンゴル) 文化外国語専門学校



「私の宝物」

キム ジミン
金 志玟 (韓国) 関西外語専門学校



審査員は次の5名の先生方でした。お忙しい中、長時間にわたって審査をお願いいたしました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

- ・文化庁 国語課長 柳澤 好治 先生
- ・公益社団法人 日本語教育学会 副会長
武蔵野大学 グローバル学部 准教授 神吉 宇一 先生
- ・公益財団法人 ラボ国際交流センター
ラボ日本語教育研修所 所長 黒崎 誠 先生
- ・青山学院大学 理工学部 准教授 井口 幹夫 先生
- ・日英通訳者 キャロリン愛子ホーランド 先生



柳澤好治先生



井口幹夫先生



キャロリン愛子ホーランド先生

全体の講評を武蔵野大学の **神吉 宇一 先生** にお話しいただきました。「自分の内面を掘り出して語られたスピーチが多く、コロナ禍で様々な経験を積みながらも、やりがいや幸せを感じていることが伝わってきた」と今年の大会の印象を述べられました。



神吉宇一先生

最後に、「日本語がうまくなるだけでなく、集って学び、言葉を交わすことで人々がつながり、世界平和につながっていくと思う。今後も前向きに進んでいてほしい」と結びました。

文化庁の **柳澤 好治 先生**からは「留学が実現した一方でコロナのせいで苦労も多かったと思う。その分、スピーチには生き方をより良いものにしたいという思いが込められていた」と感想を話されました。「聞こえなかったかもしれないが、みんなのスピーチが終わるたびにこうやって大きな拍手を送っていたこと伝えたい」と拍手をしながらお話になったのが印象的でした。

青山学院大学の **井口 幹夫 先生**は、「初めてこの大会の審査をして私も緊張したが、誰よりも発表者の皆さんが緊張したと思う。でも緊張する経験が皆さんを成長させると思う」と発表者の皆さんにエールを送られました。また「今は英語を教えているが、以前は日本語教師だった。その頃と比べて、日本語教育は相当進化していると思う」と教師にもうれしい言葉をいただきました。

日英の通訳をされている **キャロリン愛子ホーランド 先生**の感想は「楽しい、感動するひと時が味わえたことに感謝したい」とお礼の言葉から始まりました。「母国語以外にもう一つの言語を知るということは視野が広がるということだと思う。そんな皆さんは世の中にも影響力を持つ人間であることを覚えていてほしい」と発表者の今後の可能性に期待されていました。

最後に、ラボ日本語教育研修所所長の **黒崎 誠 先生**は「何百人もの前で発表する例年の大会とは違うオンラインの大会だったが、例年よりも発表者の方々とのつながりが感じられ、不思議な気持ちになった。コロナ禍であっても多くの人とのつながりを感じることができるという象徴的なイベントだったのではないかと、例年との違いを踏まえて感想をお話になりました。



黒崎誠先生

大会の最後に、**深堀 和子 会長**（外語ビジネス専門学校）からひとこと頂戴いたしました。

「発表者の皆さんの日本語にコロナが影響していないかと不安だったが、どのスピーチも本当に素晴らしく、皆さんの努力に敬意を表したい。そして、百聞は一見に如かずとよく言うが、個人的には百見は一体験に如かずと考えたい。今回のスピーチも、今の苦しいコロナ禍での体験も今後にきっと生きていくと思う。共に頑張っていきましょう」と笑顔で大会を締めくくりました。



深堀和子会長

古屋 和雄 実行委員長（文化外国語専門学校）が開会のあいさつで「人間というのは人と人の距離が離れば離れるほど、心の距離を縮めようとする。だから今、みなさんには話したいこと、伝えたいことがいっぱい詰まっていると思う。



古屋和雄実行委員長

それを思い切り話してもらいたい」と話された通り発表者の皆さんが思い切り語り、インターネット越しに多くの人がある思いを受け止めた3時間だったのではないのでしょうか。

来年はぜひあなたの学校の学生に熱い思いを語っていただきたいと思います。



笑顔があふれる記念写真

大会終了後、事務局には会員の方から、「オンラインだとマスクがないので発表者の表情が見られてよかった」「オンラインになったことで、多くの関係者でリアルタイムで大会を視聴でき大変よい経験になった」といった肯定的な声が届きました。

大会実行委員として大会運営にあたった 西村 学 事務局長（文化外国語専門学校）と司会も務めた 加藤 正毅 副事務局長（外語ビジネス専門学校）からは、「大会前に参加校の皆様、審査員の先生方と Zoom でつないで打ち合わせをさせていただくなど、いろいろとご協力いただきましたこと、心から感謝申し上げます。至らぬ点も多々ありましたが、大会が成功であったことを素直に喜びたいと思います。」とのコメントが届いております。



＜事務局からのお知らせ＞

卒業予定者の中から学業優秀者等を対象にした「優秀学生表彰」は、現在 10 校からの申請をいただいております。締め切りは 2 月 17 日（水）です。

正会員・連携会員の皆様、まだ間に合いますので、ぜひ、ご活用ください！

2021年2月15日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当